

1 令和 6 年度決算における経営指標の状況

令和 6 年度の経営成績は、救急患者の受入れを中心に患者の確保を行うなど収益を上げる取組のもと、医業収益（⑪）が増加した一方、給与費・材料費等の増加により医業費用が医業収益を上回る結果となりました。経常収支全体（⑰）としては、約 8 億 4500 万円の損失となりました。

医業収益は、入院収益（⑦）・外来収益（⑩）とともに前年度実績を上回りました。

病院職員数（⑫）は、前年度比で医師が 1 名減、看護師及び准看護師が 15 名増、薬剤師などコメディカルが 3 名増、事務職員が 2 名減となり、全体では 205 名となりました。

給与費は、職員数の増加により、前年度比で約 2 億 7,400 万円の増額となり、職員給与費対医業収益比率（⑬）は 69.2%、前年度より 5.5 ㊦増となりました。

材料費は、高額医薬品の使用増等の理由により、前年度比で約 1 億 2,400 万円の増額となり、材料費対医業収益比率（⑭）は 31.9%、前年度より 2.5 ㊦増となりました。

経常収支比率（⑯）は、本業の医業収益は増加したものの、給与費・材料費の増加のほか、新型コロナウイルス感染症に係る補助金の交付が終了したことに伴い、経常支出が経常収入を上回ったことにより、対前年度比で 5.9 ㊦減少し、82.6%となりました。

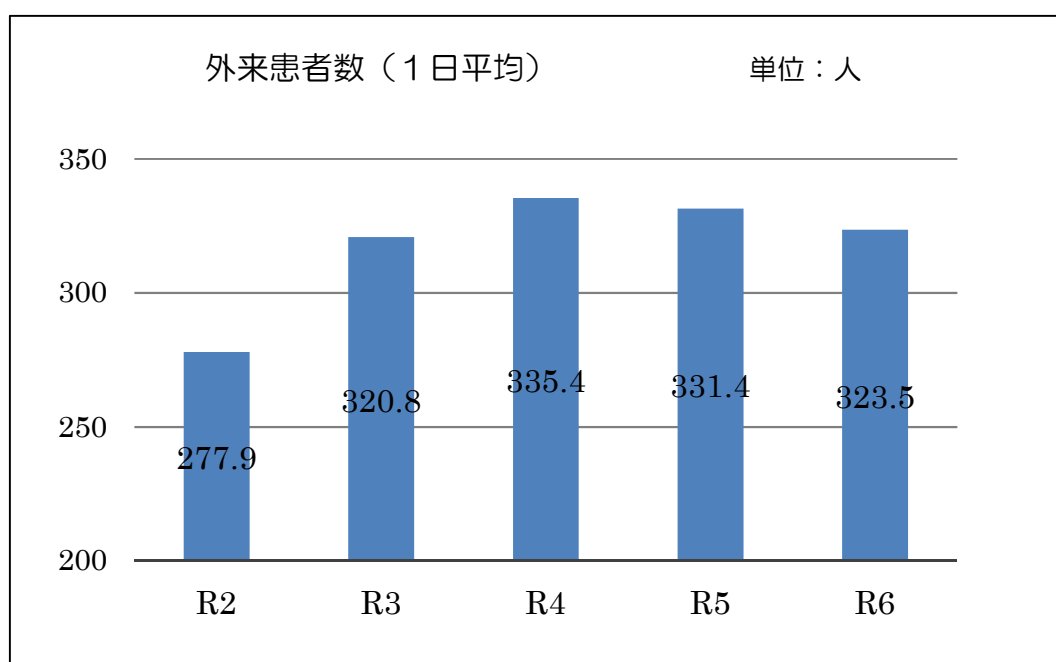
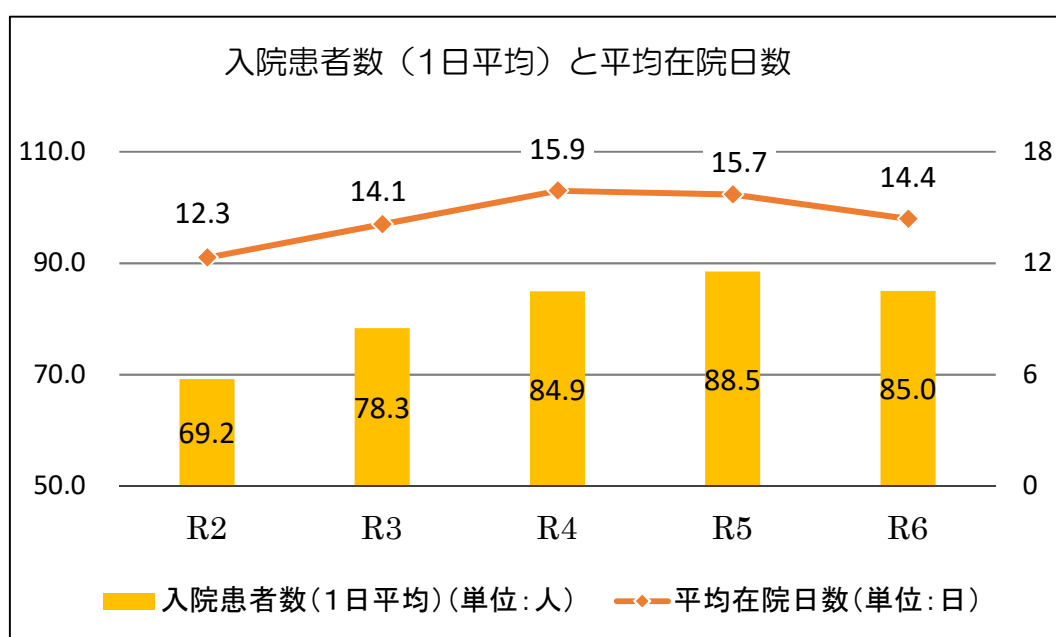
区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	対前年度 改善状況
①	一般病床数 (地域包括ケア病床)	110 床 (12 床)	110 床 (12 床)	110 床 (9 床)	134 床※ (0 床)	146 床※ (0 床)	—
②	一般病床利用率	62.9%	71.2%	77.2%	71.9%	58.2%	↓
③	年間新規入院患者数	2,081 人	2,212 人	2,125 人	2,302 人	2,329 人	↑
④	平均在院日数	12.3 日	14.1 日	15.9 日	15.7 日	14.4 日	—
⑤	1 日平均入院患者数	69.2 人	78.3 人	84.9 人	88.5 人	85.0 人	↓
⑥	1 人 1 日平均入院 診療単価(円)	50,483	52,881	56,610	55,639	59,791	↑
⑦	入院収益(千円)	1,274,991	1,511,450	1,754,073	1,801,302	1,855,430	↑
⑧	1 日平均外来患者数	277.9 人	320.8 人	335.4 人	331.4 人	323.5 人	↓
⑨	1 人 1 日平均外来 診療単価(円)	10,340	11,878	13,492	14,384	15,383	↑
⑩	外来収益(千円)	842,026	1,116,540	1,325,697	1,396,582	1,458,158	↑
⑪	医業収益(千円)	2,320,407	2,870,717	3,340,772	3,427,098	3,551,903	↑
⑫	常勤職員数 うち医師数 うち(准)看護師数	156 人 14 人 83 人	157 人 20 人 79 人	169 人 20 人 83 人	190 人 24 人 89 人	205 人 23 人 104 人	—
⑬	職員給与費 対医業収益比率	77.9%	62.0%	57.1%	63.7%	69.2%	↓
⑭	材料費 対医業収益比率	21.5%	23.6%	26.0%	29.4%	31.9%	↓
⑮	医業収支比率	74.9%	87.1%	90.1%	82.6%	77.0%	↓
⑯	経常収支比率	89.1%	117.3%	111.6%	88.5%	82.6%	↓
⑰	経常収支(千円)	▲354,557	606,277	450,017	▲505,649	▲844,580	↓

※一般病床数は、令和 5 年 7 月から 122 床、令和 5 年 12 月から 134 床、令和 6 年 4 月から 146 床と段階的に増床

2 1日平均患者数と平均在院日数

令和6年度の1日平均入院患者数（経営指標⑤）は、一般病床（経営指標①）を増床し、主に内科及び整形外科では患者数が増加しましたが、泌尿器科等へ常勤医師を配置できなかったことから、前年度比3.5人減の85.0人となりました。1日平均外来患者数（経営指標⑧）は、内科、外科及び眼科では患者数が増加しましたが、泌尿器科で患者数が大きく減少し、前年度比7.9人減の323.5人となりました。

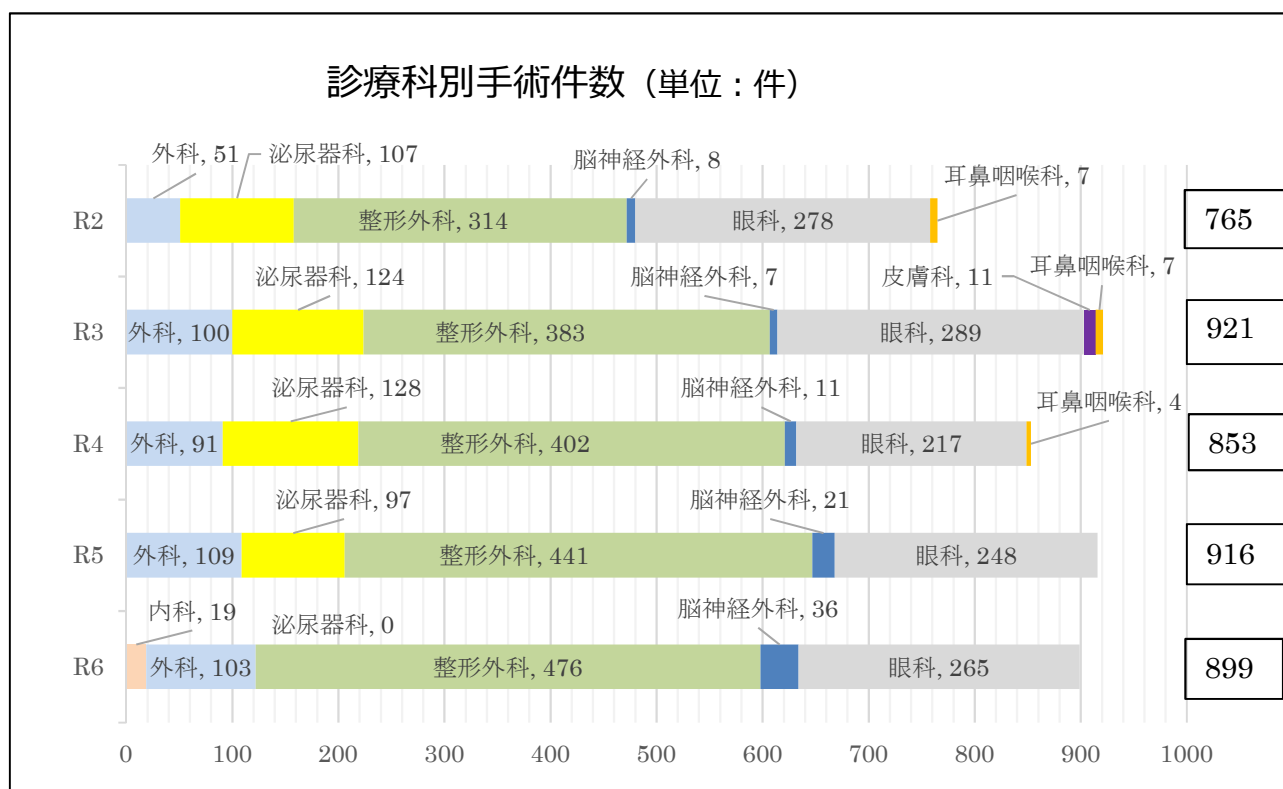
平均在院日数（経営指標④）は14.4日となり、前年度に比べ1.3日減少する結果となりました。



3 診療科別手術件数

令和6年度の手術件数は、整形外科など複数の診療科において昨年度から件数が増加しましたが、泌尿器科へ常勤医師を配置できなかったことから、97件の皆減となり、全体では899件となり、前年度に比べ17件の減少となりました。

診療科ごとにみると、前年度に比べ、内科19件（前年度実績なし）、整形外科は35件（7.9%）増の476件、脳神経外科は15件（71.4%）増の36件、眼科は17件（6.9%）増の265件でした。一方、外科は6件（5.5%）減の103件で、泌尿器科、耳鼻咽喉科及び皮膚科の手術はありませんでした。

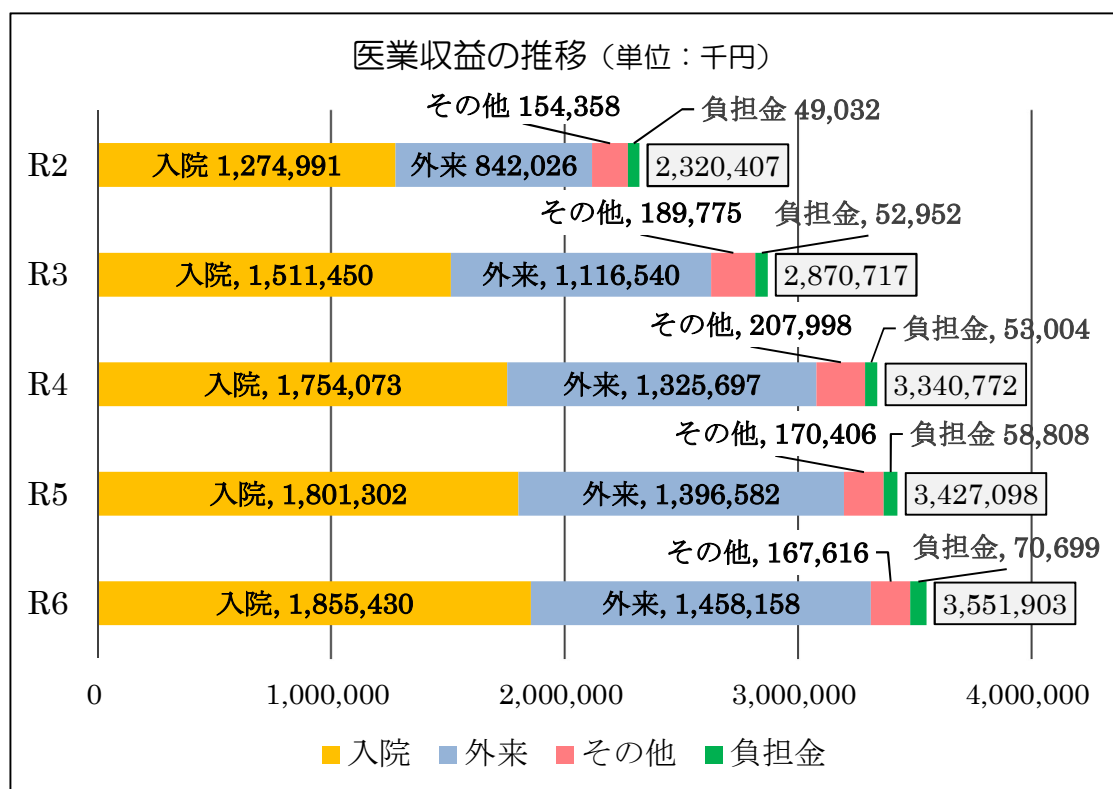


4 医業収益の推移

令和6年度の医業収益（経営指標⑪）のうち入院に関しては、主に内科及び整形外科では患者数が増加しましたが、泌尿器科では常勤医師を配置できなかったことから入院受入れができず、泌尿器科だけで延べ患者数が2,000人減少したことが主な要因で、全体の延べ患者数は31,032人となり、前年度に比べ1,343人（4.1%）減少しました。患者数は減少しましたが、患者1人当たりの診療単価（経営指標⑥）が前年度実績を上回ったことで、入院収益（経営指標⑦）は約5,400万円（3.0%）増の約18億5,500万円となりました。

外来は、延べ患者数が94,788人となり、前年度に比べ2,308人（2.4%）減少しましたが、患者1人当たりの診療単価（経営指標⑨）は前年度実績を上回り、外来収益（経営指標⑩）は約6,200万円（4.4%）増の約14億5,800万円となりました。

医業収益全体（経営指標⑪）では、前年度に比べ約1億2,500万円（3.6%）増の約35億5,200万円となっています。



5 経常収支の推移

令和6年度は、診療単価の向上などにより、入院収益（経営指標⑦）・外来収益（経営指標⑩）が増収し、医業収益（経営指標⑪）が約35億5,200万円、前年度比で約1億2,500万円（3.6%）増額しました。

一方、医業費用については、医療技師及び看護師をはじめとした職員数の増加に伴う給与の増加、神経難病疾患に対する高額薬品費などの使用増により全体では約46億1,600万円、前年度比で約4億6,500万円（11.2%）増額しました。

よって、医業損失は約10億6,400万円となり、前年度に比べ約3億4,100万円損失額が増額となりました。

医業外収益は、主に新型コロナ対策に係る補助金の交付が終了したことに伴い、補助金収入が前年度比で約3,200万円減少し、医業外収益全体では約4億4,500万円となり、前年度に比べ約2,600万円（5.5%）減額しています。

一方、医業外費用は、雑支出の減少に伴い、約2,700万円（10.8%）減額しました。

よって、経常収支全体（経営指標⑰）では、約8億4,500万円の経常損失となり、前年度と比較して、損失が約3億3,900万円増額となりました。

なお、令和6年度は医療器機売却に伴う特別利益を129,546円計上しました。

今後も、引き続き経営強化プランに掲げる4つの柱について着実に歩を進めていきます。また、地域ニーズに合わせた病院機能の再編を進め、患者の増加と収益の向上を図るとともに、各種経費や人員配置の見直しを行い、経費の抑制と効率化に努めていきます。そして、経営の健全化を促進するため、市と経費負担の見直しを図り、老朽化したMRIなどの医療機器や設備の更新を行っていきます。

